

### 3 第10次廃棄物処理計画における目標値の考え方

#### ア 一般廃棄物

目標項目	国		県					
	第4次循環型社会形成推進基本計画		第9次計画	第10次計画				
	R7 (目標年度)	平成30年度比 <sup>※2</sup>	R2 (目標年度)	H30 (基準年度)	R7 (目標年度)			
目標値		目標値	実績値	予測値 <sup>※3</sup>	目標値	考え方		
排出量	約3800万トン	約11%減	196万t以下	206万t	198万t	183万t以下	①	国の削減割合と同様に、平成30年度の実績値の11%減である183万トン以下を目標とする。
一人1日当たりの家庭系ごみ排出量	約440g	約13%減	500g以下	507g	499g	440g以下	①	国の目標設定と同様に、440g/人・日以下を目標とする。
再生利用率	—	—	30%以上	—	—	—		—
出口側の循環利用率 <sup>※1</sup>	約28%	約8ポイント増	—	22.4%	22%	30%以上	①	国の増加量と現計画の目標値である30%を踏まえ、現計画で設定した目標の30%以上を、引き続き目指すこととする。
最終処分量	約320万トン	約17%減	13万t以下	14.3万t	14万t	12万t以下	①	国の削減割合と同様に、平成30年度の実績値の17%減である12万トン以下を目標とする。

※1 「出口側の循環利用率」の目標値は、「再生利用率」に代えて、本計画で新設する。前計画の再生利用率と同じ計算方法である。

※2 国の第4次循環型社会形成推進基本計画の「平成30年度比」は、県で計算。

※3 「予測値」は、現行の施策を継続した場合に予想される推計値。

#### イ 産業廃棄物

目標項目	国		県					
	第4次循環型社会形成推進基本計画		第9次計画	第10次計画				
	R7 (目標年度)	平成30年度比 <sup>※2</sup>	R2 (目標年度)	H30 (基準年度)	R7 (目標年度)			
目標値		目標値	実績値	予測値 <sup>※3</sup>	目標値	考え方		
排出量	約3億9千万トン	増加を約3.8%に抑制	2,180万t以下	1,752万t	1,690万t	1,690万t以下	②	国の目標設定と同様とすると、県目標が1,820万トンとなる。これは平成30年度実績で達成しているため、可能な限り排出量を抑制するという考えのもと、目標値は予測値以下とする。
再生利用率	—	—	61%以上	—	—	—		—
出口側の循環利用率 <sup>※1</sup>	約38%	約2ポイント増	—	49.7%	—	52%以上	①	国の増加量と同様に、平成30年度の実績値の2ポイント増である52%以上を目標とする。
最終処分量	約1千万トン	増加を約7.4%に抑制	31万t以下	29.4万t	28.4万t	28万t以下	②	国の目標設定と同様とすると、県目標が32万トンとなる。これは平成30年度実績で達成しているため、可能な限り排出量を抑制するという考えのもと、目標値は予測値以下とする。

※1 「出口側の循環利用率」の目標値は、「再生利用率」に代えて、本計画で新設する。動物のふん尿のうち、何らかの処理をされることなく農地に還元される量は自然還元量と定義し、循環利用量には含まない。

$$\text{【産業廃棄物の出口側の循環利用率】} = \frac{\text{再生利用量} + \text{金属くず、ガラ陶、鋳さい、ガレキ類の減量化量} - \text{動物のふん尿の直接再生利用量}}{\text{排出量}} \times 100$$

※2 国の第4次循環型社会形成推進基本計画の「平成30年度比」は、県で計算。

※3 「予測値」は、現行の施策を継続した場合に予想される推計値。